

<団体紹介>

株式会社ラーンズは、教育、福祉、生活、語学を手掛ける株式会社ベネッセホールディングスのグループ会社で、現在はベネッセコーポレーションの創業事業である「生徒手帳」や「高校生向けの学習教材」を制作・販売しています。私たちは、お客様の立場で『Learn（まなび）』を『Support（支援）』し、人々の『Benesse（よく生きる）』を実現することを心がけています。

日本国内の企業を中心としたグローバル化の進展、少子高齢化と人口減少などにより、今後、内なる国際化がさらに進展すると考えています。そこでラーンズでは「日本人と同じように、在住外国人も日本で生活の充実させてもらいたい」と思い、2012年4月より、多文化共生事業「いろはにっぽん」をはじめました。

私たちは「いろはにっぽん」を通して、在住外国人の方々が、「地震が起きたとき、どのように対処すればよいかがあった!」、「お医者さんとコミュニケーションがとれ、安心して治療を受けられた!」など母国と同じように生活できることをめざしています。そして、もっと日本のことが好きになり、日本が第2の故郷であると感じられる社会をめざすべく、自治体など共同して生活情報支援を行ったり、日本語教育などを展開しています。

<IT・通信による日本語教育（教材・ツール）の概要>

以下のとおり、ラーンズでは現在までに、郵送によって行われる「日本語通信講座」を教材化しています。

①「家で学べる日本語通信講座」（スペイン語版）

（平成26～27年度文化庁『生活者としての外国人』のための日本語教育事業・地域日本語教育実践プログラム(B)受託／NPO法人日本ボリビア人協会主催／株式会社ラーンズ制作）

子育てや仕事でなかなか都合がつかず、日本語教室に通えない東海地域の在住ボリビア人を中心としたスペイン語圏の方を対象に、『生活者としての外国人』に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案に即した教材（テキスト・提出課題（第1号～第12号）、ひらがな表、カタカナ表、プレイスメントテスト、アチーブメントテスト）を、NPO法人日本ボリビア人協会に提供し、協会はそれらの教材を学習者に郵送することで、講座を運営しています。また、より学習効果を高めるため、webサイトに音声や動画教材も展開しています。



実際の通信講座で使用している教材

②「社会参加のための日本語通信講座」（ミャンマー語版、カレン語版、英語版、日本語版）

（平成27年度文化庁第三国定住難民に対する日本語教育事業／株式会社ラーンズ制作）

第三国定住難民が、定住支援施設における6か月の日本語教育プログラムを修了した後も、定住先において継続的かつ自律的に、日常生活を送る上で必要となる読み書き能力の習得を中心とした日本語学習を行うために、教材（テキスト・提出課題（現在、第1号～第8号まで制作）、ひらがな表、カタカナ表、ひらがなワークブック、カタカナワークブック）を地域の日本語教育実施団体に提供し、団体はそれらの教材を学習者に郵送し、講座を運営しています。



実際の通信講座で使用している教材